

## SilkCentral Test Manager 12.0

---



リリースノート

**Micro Focus**  
575 Anton Blvd., Suite 510  
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. SilkCentral Test Manager は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-03-08

# 目次

<b>SilkCentral Test Manager 12.0 リリース ノート</b> .....	<b>4</b>
SilkCentral Test Manager 12.0 の新機能 .....	4
手動実行計画 .....	4
マイ ダッシュボード .....	4
システム診断 .....	5
計算プロパティ .....	5
手動テスト用の Web UI でのビデオ キャプチャ .....	5
手動テスト ステップに問題を割り当てる .....	6
削除アクセス許可 .....	6
データ駆動型プロパティを削除する .....	6
電子メール ハイパーリンク .....	6
ユーザビリティ 機能の強化 .....	6
統合の強化 .....	6
Web サービスの機能拡張 .....	7
サポートされなくなる機能 .....	7
将来のリリースではサポートされなくなる機能について .....	8
テスト済みおよびサポートされているソフトウェア .....	8
システム要件と事前要件 .....	10

# SilkCentral Test Manager 12.0 リリースノート

バージョン 12.0

2012年3月

本リリースノートには、ヘルプに記載されていない重要な情報が含まれている場合があります。本書の内容すべてに目を通してください。

インストール、デプロイメント、およびライセンス管理に関する情報については、『[Test Manager インストールヘルプ](#)』を参照してください。

さらに支援が必要な場合は、[カスタマーケア](#) にアクセスしてください。

## SilkCentral Test Manager 12.0 の新機能

SilkCentral Test Manager 12.0 (Test Manager) では、大幅な機能拡張と変更が導入されました。

### 手動実行計画

新しい手動実行計画アプローチは、手動テストの選択、配分、実行を支援し、限られた時間とリソースのもとで最大限の品質目標を達成するのに役立ちます。時間とリソースは、テストサイクルのコンテキストにおいて同時に管理されます。テストサイクルは、手動テスト担当者とは各担当者に割り当てられたテスト群が指定された期間を表します。テストサイクルの手動テスト担当者ごとに最大利用可能時間を指定できます。最大利用可能時間とは、テスト担当者がそのテストサイクルで利用可能な総テスト時間を指します。

テスト管理者にとって、新しい **手動実行計画** ページは、テスト全体の進捗を効果的に計画立てるために利用できます。この新しいページの情報から、以下のような質問の回答を読み取ることで、非常に重要な質問である「手動テストを期限内に完了できるだろうか？」への回答が得られます。

- どの手動テストが実行されるか？
- いつ手動テストが実行されるか？
- 誰が手動テストを実行するか？
- どこで手動テストが実行されるか？
- 現在のテストサイクルにおけるテストの進捗状況はどの程度か？

手動テスト担当者にとって、新しい **手動実行計画** ページは、特定の期間で完了する必要があるテストが正確に表示されるため、自分の作業を効率的に優先付けするのに役立ちます。

新しい手動実行計画のアプローチは、新しいダッシュボードと密接に連携します。

### マイダッシュボード

Test Manager のダッシュボードは、ユーザー個人用の開始領域です。日常作業に必要な情報を提供するさまざまなパネルを追加し、並べ替えることによりカスタマイズできます。

ダッシュボードに追加できるパネルは以下のとおりです。

パネル	説明
カスタム情報	このパネルには、プロジェクトのカスタム情報が表示されます。ユーザーは、ニュースや説明などあらゆる種類の関連する内容をパネルに追加できます。
はじめに	このパネルには、Test Manager に関する簡単な説明が表示されます。
問題のライフ サイクル	このパネルには、定義済みの問題追跡プロファイルに対する問題およびそのステータス (対応開始、解決、検証終了、対応完了、先送り) が表示されます。
テスト担当者ごとの作成済み問題数	このパネルは、テスト担当者ごとの作成済み問題数を棒グラフで表示します。
ユーザーに割り当てられた手動テスト	このパネルは、ユーザーが実行するよう割り当てられた特定のプロジェクトのテストをすべて表示します。このパネルを使用すると、すばやくテスト作業を継続でき、全テストに関する詳細情報を取得できます。
品質目標の進捗状況	このパネルは、品質目標を達成するために実行する必要があるテスト数を、実際に実行したテスト数と関連付けて表示します。実行したテストは、合格、失敗、未実行および N/A (利用不可) に分類されます。
要件カバレッジステータス	このパネルは、手動テストまたは自動テストにより要件がカバーされているかを表示します。
テスト サイクルの進捗状況	このパネルは、定義されたテスト サイクルの合格、失敗、実行中および未実行テストのバーンアップ チャートを表示します。
テスト サイクル結果の概要	このパネルには、選択したテスト サイクルのステータスおよびテスト サイクルに割り当てられている各テスト担当者の進捗ステータスが表示されます。
全テスト サイクルにわたるテストの進捗状況	このパネルは、予定されたテスト、実行中のテストおよび完了したテストの時間 (単位は時間) を表示します。このパネルは、テストチームが時間内にテストを完了させることができるかどうかをテスト管理者が予測するのに役立ちます。
不安定なテスト	このパネルには、定義した期間内にテストのステータスが変更された回数が表示されます。これは、安定しないテストの特定に役立ちます。

## システム診断

ヘルプ > バージョン情報の新しいシステム診断 機能により、ユーザーは関連するシステム設定とログをすばやく確認し、ダウンロードすることができます。

## 計算プロパティ

計算プロパティは、内部プロパティやカスタム プロパティの値を使って定義した数式から計算された 1 つの値を作成するために使用されます。計算された値は、分類 と呼ばれるラベル付けされた範囲に分けられます。計算プロパティの例として、リスク について考えます。リスクは、他の 2 つのプロパティを基に計算されます (たとえば、優先度 \* 影響)。この計算の結果は、それぞれの要件ごとに 低、中、高 のような分類にマップされます。これらの分類は、SilkCentral Test Manager のさまざまな場所で表示され使用できます。

## 手動テスト用の Web UI でのビデオ キャプチャ

手動テスト実行で Web UI を使用する手動テスト担当者が実行ビデオをキャプチャできるようになりました。このようなビデオは後で結果ファイルとして使用できます。

## 手動テスト ステップに問題を割り当てる

この新しい機能により、手動テスト ステップに問題を直接割り当てるできるようになります。作成した問題には、リンクとして作成されたステップに関する情報が含まれます。このリンクをクリックすると、ユーザーは SilkCentral Test Manager のステップに直接移動できます

## 削除アクセス許可

SilkCentral Test Manager のほぼすべての資産に対して、従来の管理アクセス許可から削除アクセス許可が独立しました。問題が発生しないよう、カスタマイズしたロールを確認してください。

## データ駆動型プロパティを削除する

データ駆動型テストを使用していて、**テスト ツリー**の特定のテストに対してデータ駆動型プロパティを割り当てている場合、そのプロパティが不要になったら削除できるようになりました。SilkCentral Test Manager のこれまでのバージョンでは、データ駆動型プロパティを非アクティブにできましたが、完全に削除することはできませんでした。

## 電子メール ハイパーリンク

オンライン ヘルプの各トピックの一番下に、このトピックについてフィードバックを送信する というハイパーリンクが表示されるようになりました（英語のみ）。

リンクをクリックして、このヘルプのページに関するフィードバックを送信してください。

## ユーザビリティ機能の強化

このセクションでは、Test Manager 全体で行われたユーザビリティ機能の強化の一覧を提供します。

### フィルタをコピーする

既存のフィルタを再利用して新しいフィルタを作成できるようになりました。新しい機能は **要件**、**テスト**、または **実行計画** 領域のツールバーで使用できます。既存のフィルタから新しいフィルタを作成するには、既存のフィルタをコピーし、フィルタのプロパティを編集し、編集済みのフィルタを別の名前で新しいフィルタとして保存します。

### 実行計画の実行のコメント

**実行計画の実行** ページで実行計画の実行にコメントを追加できるようになりました。既存のコメントを編集するには、実行計画の実行を右クリックし、**実行コメントの編集** を選択します。

### 結果ファイルを削除する

手動テストの **現在の実行** ページの **テストの詳細** 領域で、結果ファイルを削除できるようになりました。

## 統合の強化

このセクションは、Test Manager で行った統合の強化の一覧を提供します。

## IBM Rational DOORS バージョン 9.3

Test Manager で、IBM Rational DOORS バージョン 9.3 がサポートされるようになりました。

## Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)

Test Manager で Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5) がサポートされるようになりました。

## Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2)

Test Manager で Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2) がサポートされるようになりました。

## VMware vCenter Lab Manager 4.0.4

Test Manager が VMware vCenter Lab Manager 4.0.4 をサポートするようになりました。

## Changepoint 2010 SP1

Test Manager が Changepoint 2010 SP1 を使用した Compuware Quality Manager をサポートするようになりました。

## Bugzilla 4.0

Test Manager が Bugzilla 4.0 をサポートするようになりました。

## Microsoft Office Word 2007 .docx のインポート

Test Manager が Microsoft Office Word 2007 .docx ファイル形式をサポートするようになりました。

以下の改善によって、.docx は .doc と同じの機能を果たします。

- 画像とその他の埋め込みオブジェクト (OLE) (PDF、Excel など) が要件の添付ファイルとして検出され、インポートされます。
- 説明にハイパーリンクを含めることができます。

## MSTest

Test Manager は、Visual Studio 2010/Test Agent 2010 と共に配布されている MSTest をサポートするようになりました。

## Web サービスの機能拡張

このセクションは、Test Manager Web サービスに行われた機能拡張の一覧を提供します。

### プロジェクトのコピー API

Web サービス API を使用して、プロジェクトをコピーできるようになりました。ユーザー インターフェイスで指定できる設定と同じ設定を指定できます。

## サポートされなくなる機能

このトピックでは、Test Manager 12.0 ではサポートされなくなる機能を示します。

### SilkTest テスト計画のアップロード

SilkTest から Test Manager への計画のアップロードはサポートされなくなります。SilkCentral Test Manager 2009 で *SilkTest* テスト計画テスト タイプが導入されたため、SilkTest から Test Manager に計画をアップロードする必要がなくなり、またこの操作は推奨されなくなりました。この新しいテスト タイプを使用することによって、SilkTest で作成される計画ファイル構造が SilkTest テスト計画ファイルの実行に合わせて動的に維持管理されるため、メンテナンスの労力が軽減されます。

# 将来のリリースではサポートされなくなる機能について

このセクションでは、将来のリリースではサポートされなくなる予定の Test Manager の機能を示します。

## Upload Manager

将来のリリースでは、Upload Manager によるファイルのアップロードはサポートされなくなります。

## データ駆動型アトミック アプローチ

将来のリリースでは、異なる入力データを用いたテストを実行する機能が簡略化されます。異なるデータの行は **テスト** 領域で表示されなくなり、結果領域のみで表示されるようになります。失敗した単一データ行を再実行することは可能です。

## リンクされたテスト コンテナ

将来のリリースでは、リンクされたテスト コンテナは削除されます。Test Manager におけるこの機能の主な目的は、SilkTest Classic 計画ファイルのインポートをサポートすることでしたが、使用していたアプローチはテストパッケージ機能に置き換わります。

## 混在した実行計画

将来のリリースでは、1 つの実行計画に自動テストと手動テストを混在させることはできなくなります。

## Manual Testing Client

将来のリリースでは、Manual Testing Client と Web ソリューションは 1 つのソリューションに統合され、より効率よく簡単に手動テストを実行できるようになる予定です。

## 内部問題プロファイル

将来のリリースでは、Test Manager の内部問題追跡機能は、SilkCentral Issue Manager によって既にサポートされている によって置き換えられる予定です。

## 古い要件 Web サービス

将来のリリースでは、古い要件 Web サービスはサポートされなくなる予定です。要件 Web サービスは同等の機能を持っており、今後も定期的にメンテナンスされます。

# テスト済みおよびサポートされているソフトウェア

このセクションでは、Test Manager 12.0 がテストされたソフトウェア、および Test Manager がサポートするソフトウェアの一覧を示します。

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビット オペレーティング システムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

## サポートされるオペレーティング システム

- Windows XP サービス パック 3
- Windows XP 64 ビット サービス パック 1 (実行サーバー)
- Windows Server 2003 R2 サービス パック 2
- Windows Vista Ultimate 32 ビット (実行サーバー)
- Windows Server 2008



- Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット
- Windows 7 32 ビット/64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)

### **サポートされる Linux オペレーティング システム**

Test Manager は、Linux オペレーティング システムを実行サーバーに限りサポートします。

- Ubuntu
- Redhat Enterprise Linux
- Debian
- Suse Linux

### **サポートされる Web ブラウザ**

- Internet Explorer 8
- Internet Explorer 9
- Mozilla Firefox

### **サポートされる Web サーバー**

- IIS 6 32 ビット/64 ビット
- IIS 7 32 ビット/64 ビット
- Micro Focus スタンドアロン Web サーバー (Tomcat)

### **サポートされるデータベース管理システム**

- Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 3
- Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 2
- Microsoft SQL Server 2008 R2
- Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)
- Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2)

### **サポートされる統合された Micro Focus ソフトウェア**

- CaliberRM 2008 SP1
- CaliberRM 10.1 (要パッチ)
- Caliber DefineIT 2008
- CaliberRDM 2010 SP2
- CaliberRDM 10.1
- SilkPerformer 2011
- SilkPerformer 9
- SilkTest 2010 R2
- SilkTest 2011
- TestPartner 6.3
- StarTeam 2009 R2
- StarTeam 12.0

### **サポートされる統合されたサードパーティ ソフトウェア**

- Bugzilla 3.6.1
- Bugzilla 4.0
- IBM Rational ClearQuest 2003.06.15.734.000
- IBM Rational Requisite Pro 7.0.0.0

- JUnit 4.4 以降
- SAP Solution Manager 7.1
- SnagIT 8.1
- SnagIT 8.2.1
- Subversion 1.5.x
- Subversion 1.6.x
- VMware vCenter Lab Manager 4.0.3
- VMware vCenter Lab Manager 4.0.4
- Telelogic Doors 8.0
- Telelogic Doors 8.2
- IBM Rational DOORS バージョン 9.3
- FitNesse 20070619
- FitNesse 20081201
- VersionOne Enterprise Edition
- Rally
- Compuware Quality Manager (Changepoint 2010 SP1、Changepoint 2009 または Changepoint 2009 SP2)
- JIRA 4.4
- Microsoft Office Excel (.xlsx) (テストのインポート用)
- Microsoft Office Word (.doc、.docx) (要件のインポート用)

### サポートされる Java

- Java Software Development Kit (SDK) 1.6 以降
- Java Runtime Environment (JRE) 1.6 以降
- Java Runtime Environment (JRE) 1.6 以降、32 ビット (Manual Testing Client Webstart 用)


## システム要件と事前要件

### サーバー システムの要件

アプリケーション、フロントエンド、実行、およびチャートの各サーバーは、特に記載がない場合、32 ビットオペレーティングシステムの構成で検証されています。64 ビットの構成もサポートされますが、サービスが 32 ビット JVM に基づいているため、パフォーマンスは向上しません。

システム対象	要件
CPU	Pentium IV 以上、または x86 と互換性のある同等のプロセッサ
メモリ	最低 2 GB
空きディスク容量	最低 10 GB、データベース サーバーを除く
ネットワーク	100 Mbit。Manual Testing Client と実行サーバーは低帯域幅の接続で接続できます。
フロントエンド、アプリケーション、およびチャートの各サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows XP サービスパック 2 以降</li> <li>• Windows Server 2003 R2 サービスパック 2</li> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット</li> </ul>
実行サーバーのオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows XP サービスパック 2 以降</li> <li>• Windows XP 64 ビット サービスパック 1 (実行サーバー)</li> </ul>

システム対象	要件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2003 R2 サービスパック 2</li> <li>Windows Vista Ultimate Edition 32 ビット</li> <li>Windows 7 32 ビット サービスパック 1</li> <li>Windows 7 64 ビット サービスパック 1</li> <li>Windows Server 2008</li> <li>Windows Server 2008 R2 サービスパック 1 64 ビット</li> </ul>
Web サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tomcat</li> <li>IIS</li> <li>Apache、ロード バランサとして使用</li> </ul>
データベース管理システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft SQL Server 2005 サービスパック 2</li> <li>Microsoft SQL Server 2008 R2</li> <li>Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)</li> <li>Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2)</li> </ul>
電源供給	停電時のリスクを減少するため、すべての環境に対する無停電電源装置 (UPS)

 **注:** Test Manager をエンタープライズ システムとしてインストールするには、Test Manager の各サーバーを個別のマシン上にインストールします。これらサーバーには、アプリケーション サーバー、フロントエンド サーバー、チャート サーバー、実行サーバー、および、データベース システムなどが含まれます。この方法については、『*SilkCentral Test Manager 12.0* インストール ヘルプ』の「カスタム インストール」に概要が記載されています。これらのコンポーネントは、好きな組み合わせで、複数のマシン上にインストールすることが可能です。

Test Manager の最適な構成の詳細については、テクニカル サポートに問い合わせてください。

### 実行サーバーの要件

実行サーバーに対する実際の要件と前提条件は、テスト対象のアプリケーション (AUT) やテストのタイプに依存します。

負荷テストについては、SilkPerformer の環境要件を参照してください。最小限の構成での負荷テストは、不正確な結果につながります。

機能テストについては、SilkTest の環境要件を参照してください。Web ブラウザのリプレイなど、集中的なテストについては、最小 1024 MB のメイン メモリが推奨されます。

### 仮想化

Test Manager は仮想インフラストラクチャ環境 (たとえば、VMware ESX Server) での実行がテストされています。最適なパフォーマンスのためには、物理ハードウェアを使用することをお勧めします。

### クライアント側のシステム要件

システム対象	要件
プロセッサ	Pentium IV 以上、または x86 と互換性のある同等のプロセッサ
メモリ	1 GB
空きディスク容量	1 GB
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Internet Explorer 8</li> </ul>

システム対象	要件
	<ul style="list-style-type: none"><li>• Windows Internet Explorer 9</li><li>• Mozilla Firefox</li><li>• Google Chrome</li></ul>